



【大連支店】

中国のお米事情について

1. はじめに

中国では毎年旧暦の8月15日に中秋節を迎えます。2019年度は9月13日がこの祝日にあたり、13日(金)~15日(日)で3連休となっています。中秋節は春節、清明節、端午節と並んで伝統的な祝日とされ、日本の“お月見”と同様に、月の美しさを楽しみ、家族揃って食事をし、月の形をなぞらえたお菓子である、「月餅」を食べる習慣があります。

またこの季節はお米をはじめとして様々な農作物の収穫時期であり、中秋節はその年の豊作を感謝するイベントでもあります。中国では日本と同様、お米はなじみのある主食のひとつであり、近年は日本米の認知度も高まってきています。今回は最新のお米事情について紹介していきます。

2. 中国のお米生産と消費

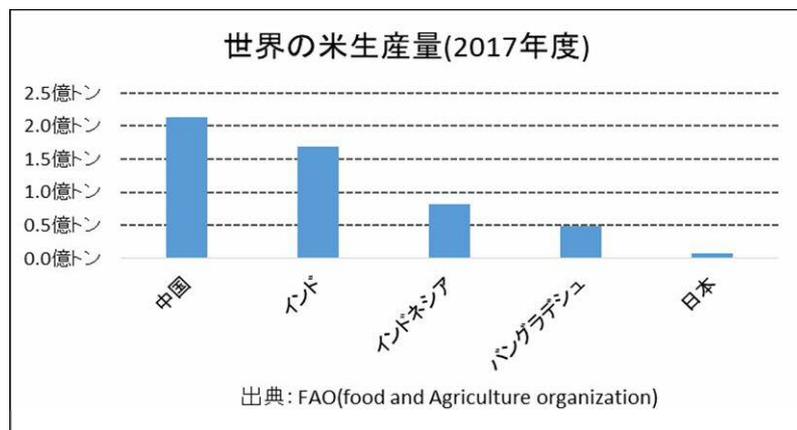
現在、中国は世界最大の米生産国であり、かつ世界最大の米消費国となっています。生産量について直近の公表データによると、2017年で第1位の中国約2.12億トン、第2位

インド約1.68億トンとなっており（日本は約0.08億トン）、日本と比べて規模・量とも圧倒的です。

また米の消費量において、中国国内消費者の65%がお米を主食とし、公表されている2015年のデータではその消費量は1.48億トン/年間となっています。

従前は北方は小麦食(麺や餃子、饅頭など)、南方は米食と言われていましたが、近年はお米の品質向上や食の多様化も進んだことで、幅広い地域で米食が浸透し、消費量はさらに拡大しています。

消費される米の種類でみると、日本でも多く生産される「ジャポニカ米」と東南アジア



などで流通している「インディカ米」の2つに大別されます。一般的に上海から北の地域では「ジャポニカ米」が主流で、上海以南の地域では「インディカ米」が消費・生産の主体となっています。

3. 中国東北地区のお米生産について

当店の拠点を構える大連市を含む中国東北地区(遼寧省、吉林省、黒竜江省)にフォーカスをあてると、お米、大豆やトウモロコシを含む穀物生産量は中国全体の3割以上を占め(お米に関しては15%ほどと言われています)、中国における食料の一大生産地となっています(大連市はその食料物流中継地点として重要な役割を担っています)。

お米の生産に関しては、距離的に日本に近く、また日本の東北地区(秋田県・岩手県)とも気候が近いことなどから、古くから日本の栽培技術や品種改良技術が導入されました。加えて、寒冷地であり南方と比較し病害等の発生率が低く、農薬の使用量も少ないことから安全面でも優位性があり、黒竜江省を中心とした中国東北地域は有数のブランド米生産地となっています。「五常」や「盤錦大米」、「營口大米」など東北米(ジャポニカ米)の高級ブランドとして、生産、加工、物流が厳格に管理され、安心・安全な高品質米として中国国内で広く認知されています。

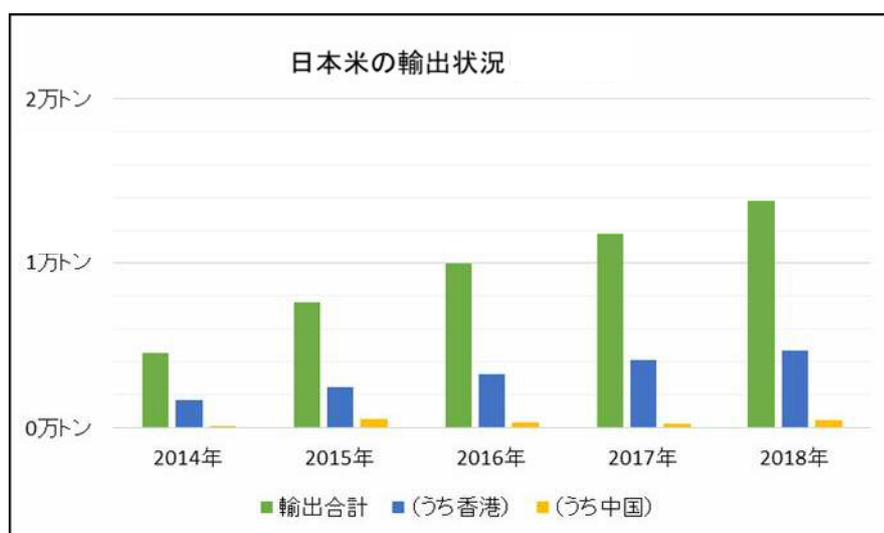


写真：大連市内スーパーのお米売り場

4. 日本米の中国への輸出状況と課題

日本国内の米消費量は1963年の118.3 kg/人をピークに減少を続け、2017年で54.2 kg/人となっており、人口減少に歯止めがかからない状況下では、将来の日本米マーケットを切り開く上で海外の販路開拓が重要なポイントとなっています。

現状の輸出内容で見ると、2018年の日本米の輸出数量は約1.4万トン(前年比+16%)で2014年の0.5万トンと比較すると大きく伸長していますが、そのうち中国向けは約5百トンと全体のわずか3.78%に留まっています。(2019年6月までの半期速報値で中国向け384トン、全体の4.93%)



出典：農林水産省 HP（商業用の米の輸出数量等の推移）より
 日本政府も、精米を含む米加工品(米菓・日本酒・包装米飯)の 2019 年の輸出目標を 600 億円として、オールジャパンで積極的に輸出を推進している状況です。

一方で、中国向けの日本米輸出は過去の原発事故に伴う輸出規制の影響から依然として制約が多く、例えば輸出米として加工するには中国から指定された精米工場、指定された燻蒸(くんじょう)倉庫を使用しなければならず、流通ルートが固定化されておりコストも嵩むことから、新規参入がなかなか難しい状況にあります。

【中国向け精米工場指定一覧】

工場名	
1	ホクレン農業協同組合連合会 パールライス工場
2	全農パールライス(株) 神奈川精米工場（輸出停止中）
3	(株)神明きっちん 阪神工場

【中国向け精米燻蒸倉庫登録一覧】

燻蒸倉庫名	
1	小樽倉庫事業協同組合 低温倉庫
2	石狩湾新港倉庫事業協同組合 低温倉庫
3	酒田港西埠頭 燻蒸上屋
4	(株)日新 神奈川倉庫
5	(株)日新 神奈川倉庫 G 号
6	全農神奈川恵比寿町倉庫
7	(株)上組神戸支店 住吉倉庫
8	(株)上組矢代支店 矢代倉庫

※農林水産省HPより抜粋

また先に触れたように、中国国内では既にいくつかの現地ブランド米が市場に参入しており、日本産米に見劣りしないほどの品質や味の現地米も流通していて、大連に駐在している我々日本人が食べても、差が分からないほどの美味しさです。

一方で日本を訪れたことがある中国の方は、日本で食べた日本米の美味しさも理解しており、展示会等で日本米を提供すると、興味をもってくれる方の大半が過去に日本で日本米を食べた経験があり、「また食べたいと思っていた」といったような話が聞けます。

ただし、現実の問題として現地ブランド米と輸入日本米の店頭価格を比較すると、5倍～10倍程度の価格差があり、中間所得層が増えてきている、或いは美味しい日本米が食べたいとは言っても、一般の方が日常的な食事で日本米を選択するのは、まだ少しハードルが高いのが実情です。

5. 終わりに

先に少し触れたように、大連市は中国東北地域の食料の物流拠点として長年に亘って重要な役割を担ってきました。現在も上海市など主要都市への穀物輸送ルートとして、国内・海外を問わず利用されています。日本米についても中国側指定業者「COFCO」の指定港が大連港であり、倉庫を構えていることから、輸入のほぼ全量が大連港で輸入されています。(2018年11月より、「COFCO」以外にも中国指定業者が指定されたことから、直近では大連港以外でも輸入されている可能性があります。)

2018年度からは大連自由貿易区による越境ECの取組も本格的にスタートしており、今回取り上げた日本米を含む農産品や食品など、改めて日本ブランドをセールスする良いタイミングであると言えます。中国においては、依然として日本産品は「安心・安全かつ本物」であるという意識が強く根付いており、他国と比較しても、日本企業にアドバンテージがある状況です。加えて、大連市はもともと日本とのつながりが深く、友好の歴史のある街でもあります。

私ども大連支店では日系企業のビジネスをお手伝いするため、様々なサービスを提供しております。ぜひお気軽にご相談ください。

(山口銀行大連支店 井上喜暁)

【参考文献】

- ・「農林水産物・食品の輸出促進について」「米の輸出をめぐる状況について」…農林水産省(2019年8月)
- ・「平成25年度海外農業・貿易事情調査分析事業/中国のコメ生産・消費・輸出状等(ジャポニカ米を中心に)」…日本総合研究所総合研究部門(2014年3月)
- ・「中国・東北地方の経済動向」…在瀋陽日本領事館(2012年12月)
- ・「中国東北3省における稲作の成長と技術進歩に関する経済分析」…京都大学農学研究科張越傑(2001年10月)
- ・「我が国における米の輸出入について」…勝田英紀(商経学叢第63巻第3号2017年3月)
- ・GLOBAL NOTE…「世界のコメ生産量国別ランキング・推移」